

性の多様性を認め合う 児童生徒の育成 I



平成29年 3 月

倉敷市教育委員会



はじめに

近年、性的マイノリティ（LGBT）の人たちへの社会的関心が高まっているにも関わらず、その理解は十分に進んでいるとは言えません。その割合は、調査によっては7.6%（2015年電通調査）とされており、児童生徒の中にも存在するという認識が求められています。

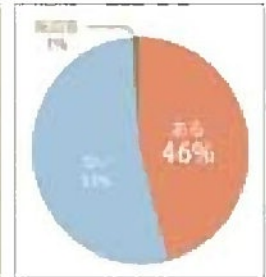
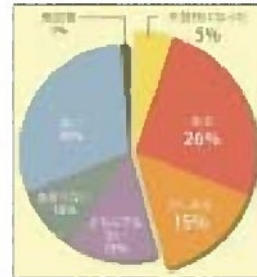


学校における性的マイノリティとされる児童生徒の思い

主に県内の当事者を対象にしたアンケート調査結果を見ると、セクシュアリティに関することが原因で「学校へ行きたくないと思ったことがある」「自傷行為をしたことがある」といった質問に対して高い割合で「ある」と答えていることから、自分らしさを出せず、生きづらさを感じている（いた）ことが伺えます。その背景には、周囲の理解不足やメディア等の影響からくる偏見があると考えられます。友達からのからかいやいじめ、教師の言動などに傷ついたという声も聞かれました。平成24年に閣議決定された「自殺総合対策大綱」でも「自殺念慮の割合等が高いことが指摘されている性的マイノリティについて、無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つであると捉えて、教職員の理解を促進する。」と示されています。

「学校へ行きたくない」と思ったことは？

自傷行為をしたことがある？



性的少数者自助グループ「プライド岡山」によるアンケート調査（2016年岡山市市民協働推進ニーズ事業）より

平成22年「児童生徒が抱える問題に対しての教育相談の徹底について」

平成26年「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査について」

平成27年「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」

平成28年「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」

学校における支援について

学校における性同一性障害に係る児童生徒への支援について、文部科学省も対応を進めており、「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」では、学校における支援体制や医療機関との連携、学校生活の各場面での支援などについて具体的に示されました。この中で、悩みや不安を受け止める必要性は、性同一性障害に係る児童生徒だけでなく、いわゆる「性的マイノリティ」とされる児童生徒全般に共通するものであることが明記されています。



学級・ホームルームにおいては、いかなる理由でもいじめや差別を許さない適切な生徒指導・人権教育等を推進することが、悩みや不安を抱える児童生徒に対する支援の土台となること。（「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」より）

今、「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」が求められている

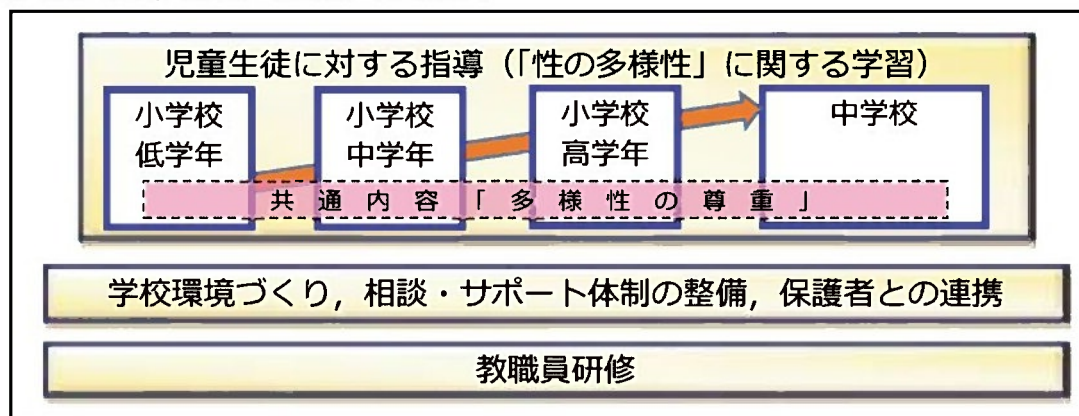
性的マイノリティの人権が保障されるために学校ですべきことは、性的マイノリティとされる児童生徒への支援は当然ですが、全ての児童生徒が、性自認や性的指向の多様性について正しく理解し、他者の痛みや感情を共感的に受容できるように指導することも大切なことと考えられます。そこで、「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」を本年度の人権教育課題研究委員会の研究主題とし、指導に重点を置いて研究実践を積み重ねました。主題に「性的マイノリティの人権」を入れなかったのは、「どこか遠い世界の話」ではなく、「性の問題は誰もが当事者である」と捉える必要があるからです。この問題の解決を目指す教育活動は、性の問題だけでなく、個人の尊厳を認め合い、社会全体の多様性を認め合うことにつながると考えています。

本資料は、10名の人権教育課題研究委員の研究実践をまとめたものであり、学校園における実践に活用してほしいと考えています。

「性の多様性」に関する学習の前提として

児童生徒に「性の多様性」に関する指導の前提として、互いの違いを認め合い、自分らしさを大切にするという素地づくりが必要です。「性の多様性」に関する教職員研修を実施し、学校環境づくりや相談・サポート体制の整備、保護者との連携などを進めていく中で、児童生徒に正しく理解させたいことが整理されてきます。「まずは授業ありき」とならないように留意する必要があります。

※教職員研修については、視聴覚教材の視聴・資料の読み合わせ、性的マイノリティ当事者・支援者や専門家による講話・ワークショップ等が考えられます。倉敷市教育委員会でも情報提供をしていますので、お問い合わせください。



学校環境づくりの例

教師の言動についての点検

教師の何気ない一言が児童生徒を傷つけることがあります。正しい知識をもって、偏見のない言動、プラスメッセージとなる言動を取る事が求められます。

一人ひとりを大切にする学校の雰囲気と体制づくり

日頃から受容と共感の態度で、児童生徒に接します。

互いの違いを認め合い、自分らしさを大切にできる学級づくり

「よいところ探し」や自尊感情を高める取組などを継続して行うことで積み上げられていきます。

不必要な男女区分の見直し

性に関して悩んでいる児童生徒にとって、男女にはっきりと区分される場面は精神的負担が大きいと考えられます。名簿、呼称、役割分担等において、不必要な男女区分がないか再点検をする必要があります。

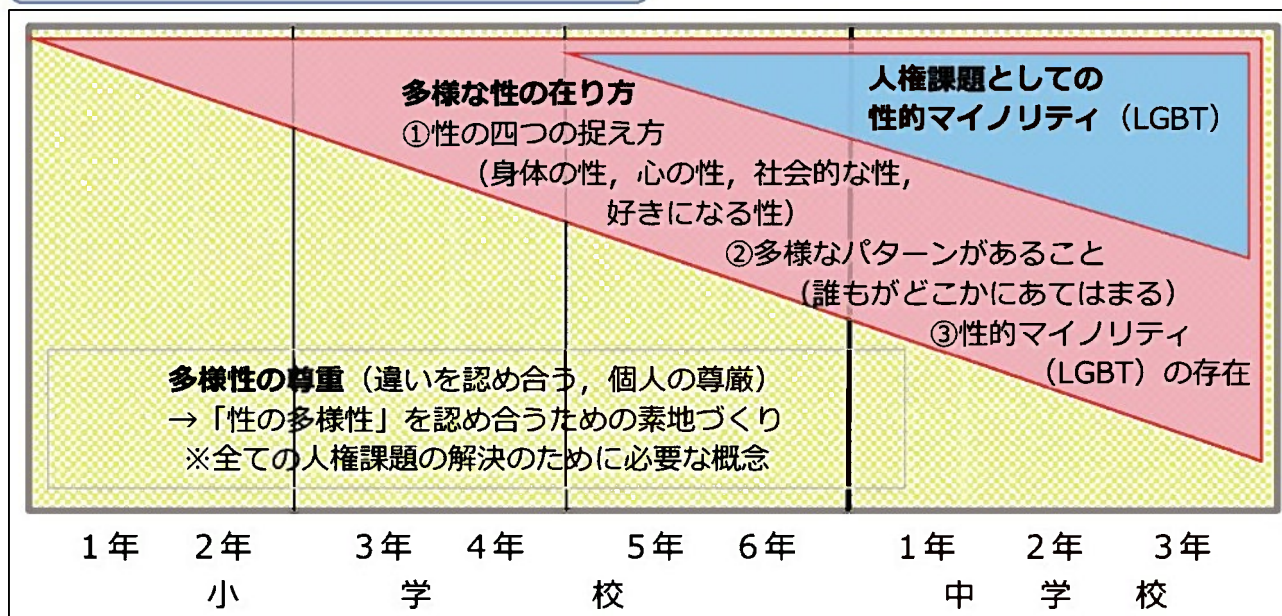


保健室・図書室との連携

環境づくりや支援は、教室で学級担任中心に行うだけでなく、養護教諭、図書館司書との連携によって、保健室・図書室でも行うことができます。関連する書籍の閲覧・貸出や関連ポスターの掲示、相談先を記したリーフレット（カード）の設置などにより、該当する児童生徒の安心感や自己肯定感を高めることが期待できます。また、児童生徒全体が正しい知識を得ることにもつながります。



発達段階に応じた学習内容



STEP 1

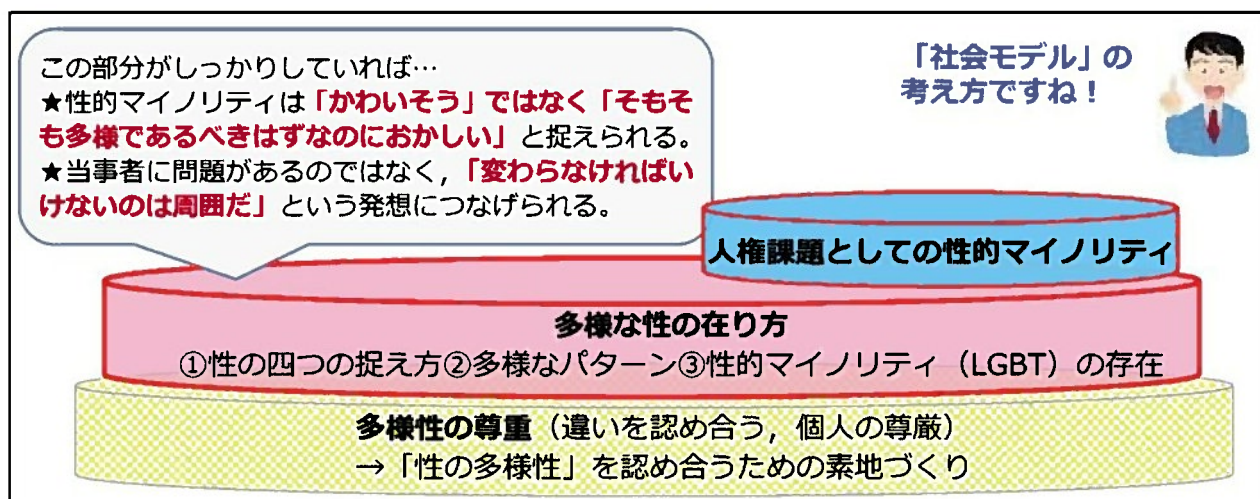
まずは、どの人権課題にも言えることですが、違いを認め合う、個人を大切にするといった「**多様性の尊重**」は小学校低学年から中学校までどの学年でもベースとして必要です。

STEP 2

その上に、「多様な性の在り方」の学習が位置付けられます。「**多様な性の在り方**」の学習は①**性の四つの捉え方** (身体の性・心の性・社会的な性・好きになる性)、②**多様なパターンがあること** (誰もがどこかにあてはまる)、③**性的マイノリティ (LGBT) の存在**などについて正しく理解させることが求められます。「科学的な知見に基づいた、正しい理解」がポイントです。なお、発達段階を考慮して、「好きになる性」については、小学校高学年以上からでもよいかもしれません。

STEP 3

「多様な性の在り方」の一つの要素として、人権課題としての性的マイノリティ (LGBT) の学習があります。これは小学校高学年以上から始まり、義務教育を終了する中学3年生にかけて厚みを増していきます。「性の多様性」の学習内容として、いきなり「人権課題としての性的マイノリティ」を取り上げると、児童生徒にとって唐突感のある授業になり、困惑や「当事者探し」を引き起こす恐れもあります。**当事者の生きづらさを理解することは、性の多様性を学ぶ上で重要な要素ですが、それが全てではありません。**STEP 1・2を充実させることがこの学習のポイントと言えます。



学習内容「多様性の尊重」について



「性の多様性」の学習の素地づくりとして、「多様性の尊重」に関する学習が必要です。この概念は他の人権課題の解決にもつながるもので、「ちがいのちがいの」などの学習内容が考えられます。参加体験型の手法を通して身に付けられる知識と技能は、授業内にとどまらず、日常生活にも生かされるはずです。そのためにも、日頃の学級経営が大切であると言えます。

学習内容「多様な性の在り方」について①「性の四つの捉え方」

多様な性の在り方として、**性には「身体の性」「心の性」「社会的な性」「好きになる性」の四つの捉え方**があることを理解させます。「男女二つにしか分けられない」「異性を好きになるのが当然」というものではないことをしっかりと押さえます。この学習に関しては、各種リーフレットや書籍、視聴覚教材などが発行されている（p.17 参照）ので、それらを活用することも有効です。

「身体の性」／生物学上の性

生まれながらの身体の性のことです。

「心の性」／性自認

身体の性に対して、自分の性別をどのように認識するかということです。

「社会的な性」／性役割・性表現

成長過程・社会生活の中で、後天的に身に付けていく性のことです。社会的な性役割としての「女らしさ」「男らしさ」や服装などの性表現などを言います。

「好きになる性」／性的指向

愛情・恋愛感情、性的欲求の対象となる性のことです。

「世の中、男女二つにしか分けられない」「異性を好きになるのが当然」というわけではありません。

このことをきちんと確認しておきましょう。



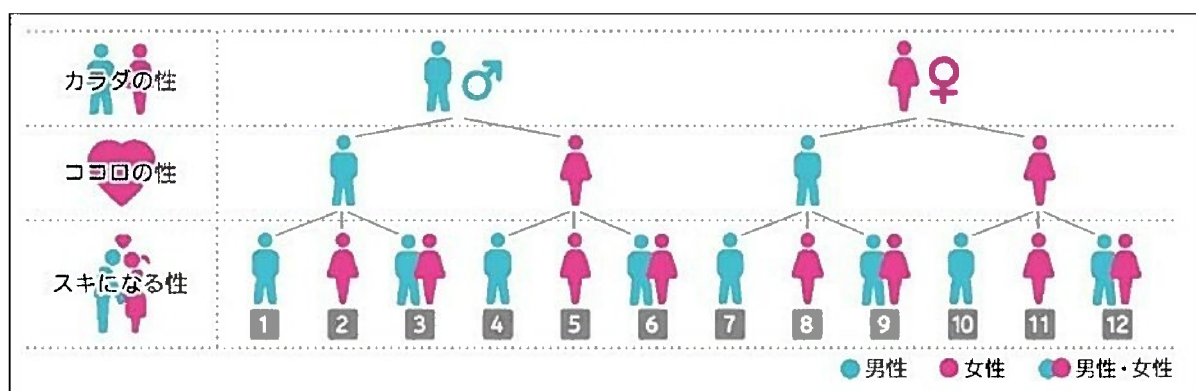
「性の四つのものさし」を使った学習

性の四つの指標ごとに、あてはまる位置に丸印を付けていきます。視覚化されることで、性の捉え方が一面的でないことや、はっきりと二分化できないことが理解しやすくなります。教師など身近な大人の例を提示することで、本人の感じ方と周りの感じ方の違いについても感覚的に捉えることができます。ただし、この学習において、性に関して秘匿したい児童生徒がいるという前提での配慮が必要です。（例「友達に見せなくていいよ。」「心の中で印をつけてください。」といった指示等）教師も、必ずしも自らのことを開示する必要はありません。

こころの性 女 ——— 男
身体の性 女 (丸印) 男 (丸印)
社会的な性 女 ——— 男
好きになる性 女 ——— 男

← QWRC&徳永桂子
『LGBT なんでも聞いてみよう』 子どもの未来社、2016年 より

学習内容「多様な性の在り方」について②「多様なパターンがあること」



電通ダイバーシティ・ラボ制作「セクシュアリティマップ」

性の捉え方が一つでないなら、性の在り方は何パターンもあることになります。グラデーションという見方もできるので、100人いれば100通りあり、「**みんなどこかに位置付いているんだ**」、「**どこかの他人の出来事ではなく、誰もが当事者**」、「みんな自分らしく生きたいと願っている、ただそれだけのこと」と捉えさせることがポイントです。上のような図を示して、視覚的に捉えさせるとより効果的です。



学習内容「多様な性の在り方」について③「性的マイノリティの存在」

それぞれの要素におけるバリエーションのうち、非典型的な場合、マイノリティと位置付けられます。

「心の性」
／性自認

自分の性別に違和感をもたない人を「シスジェンダー」、違和感をもつ人を「**トランスジェンダー（T）**」といいます。トランスジェンダーの中でも、医学的側面から、身体の性別と性自認の間の違和感の在り方が、診断基準を満たす場合は「**性同一性障害**」とされます。

「トランスジェンダー」は、大きく次のように分類されます。

トランスセクシュアル（TS）…身体、特に性器に違和感をもつ。

（狭義の）トランスジェンダー（TG）…社会的な在り方に違和感をもつ。

トランスヴェスタイト（TV）…性別の表現、特に服にこだわりをもつ。

「社会的な性」については、男女共同参画の視点で行われる学習と関連付けることができます。

「社会的な性」
／性役割・性表現

「好きになる性」
／性的指向

異性を好きになる人を「**異性愛者（ヘテロセクシュアル）**」というのに対して、同性を好きになる人のことを「**同性愛者**」といいます。

レズビアン（L）…女性同性愛者

ゲイ（G）…男性同性愛者

バイセクシュアル（B）…両性愛者

その他に、恋愛感情や性的欲求を抱かない「無性愛者（アセクシュアル）」などがあります。

諸説ありますが、どの時代・地域においても同性愛者は存在するとも言われています。WHO（世界保健機関）は1993年、「同性愛は治療の対象にならない」と宣言しました。

学習においては、保健体育科、社会科、国語科との関連も図ることができます。

「SOGI」とは

Sexual **O**rientation (性的指向) and **G**ender **I**ntity (性自認) の頭文字を取った総称です。平成 18 (2006) 年以降、国連の諸機関で広く用いられている概念です。平成 28 年の文部科学省通知の中でもこの表現について記されています。

性的マイノリティを表す「LGBT」や「LGBTQ」などの表現も一般的によく使われますが、この表現には「多数者と少数者」「自分には関係ない話」という捉え方にもつながるという指摘もあります。

「LGBTという分類」ではなく、「性的指向・性自認という構成要素」に着目することで、典型的か非典型的かの違いはあっても「誰もが当事者」と捉えやすくなるのではないのでしょうか。「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」において、「SOGI」は重要な概念と言えます。

学習内容「人権課題としての性的マイノリティ」について

性的マイノリティ**当事者が感じた生きづらさや苦しみ、前向きに自分らしく生きている姿などを共感的に理解し、自分に引き寄せて考え、行動に結び付けられる学習**が望まれます。手記や視聴覚教材、当事者との交流などを活用した学習が考えられます。その場合は、右のとおり、**発達段階や教育の中立性の確保に十分な注意**を払う必要があります。

唐突な取り上げ方をすると、児童生徒が困惑する恐れがあります。前述の「多様性の尊重」につながる素地づくりや「性の多様性」に関する関連学習を充実させることが大切です。また、性的マイノリティ当事者とされる児童生徒が自己肯定感を低めたり、「当事者探し」のようなことが起こらないようにするための配慮も必要です。授業での取り上げ方の工夫や日頃の教師の言動、共感的な人間関係づくりなどが重要なポイントです。

他者の痛みや感情を共感的に受容できる想像力等を育む人権教育等の一環として、性自認や性的指向について取り上げることも考えられますが、その場合、特に義務教育段階における児童生徒の発達の段階を踏まえた影響等についての慎重な配慮を含め、性に関する教育の基本的な考え方や教育の中立性の確保に十分な注意を払い、指導の目的や内容、取扱いの方法等を適切なものとしていくことが必要です。

※「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」（平成 28 年文部科学省通知）より一部抜粋

性的マイノリティ当事者との交流学習

ゲストティーチャーとして招き、話し合い活動の助言や講評をしてもらったり、事前にインタビューし、授業で映像（音声）を紹介したりする学習活動ができます。生の声を聴き、一緒に考えることで教育効果は高まると考えられます。指導者には、児童生徒が、自分に引き寄せて考えられる学習課題の設定やマイナス面ばかりが強調され過ぎず、プラスイメージでも捉えられるような支援が求められます。事前に、指導者から授業の意図や期待していることを伝えるとともに、当事者の思いをよく確認しておくことが必要です。



「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」 人権教育としての可能性

◎ 「多様性の尊重」

性の在り方は多様であり、いずれの在り方も尊重されなくてはならないということを学習することで、「多様性の尊重」を実感しやすいと考えられます。

◎ 「当事者性」

誰もが生きていく中で、「性」を感じたり、考えたりします。「性」は他人事でなく、自分を含めた全ての人当事者であると捉えやすいテーマです。

◎ 「自尊感情の高まり」

自分の性について、肯定的に捉えることで、自尊感情つまり自分を大切にする気持ちを高めることにもつながります。

このように考えると、「性の多様性」に関する学習は、性のみならず、広く「多様性の尊重」を一人ひとりが獲得することのできる可能性をもつテーマとして、もっと取り上げられてもよいのではないのでしょうか。



自分も多様な中の一人であることを理解するために

目指す児童の姿

今まで意識することがなかったであろう性別について考えることで、性は男女にはっきりと分かれるのではなく、「いろいろな女の子や男の子がいる」「誰もが多様な中の一人」という、性の多様性に気付くとともに、違いを認め合い、自分らしさを大切にしようとする態度を育てたいと考えた。

関連学習

学級活動（9月）「大きくなりたいな」

↓ 体の成長には個人差や性差があることを理解する。

道徳（9月）「そうそう、そこが同じ！
そうそう、そこがちがう！」

↓ 友達と同じところ、違っているところを知り、互いに認め合おうとする。

★学級活動（9月）
「性別について考えよう」

↓ 性の在り方は多様であることを知り、自分もその中の一人であることを理解する。



学級活動（10月）
「なんでもなれるよ！女の子男の子」

性別による固定的な役割分担意識に捉われず、自分の夢に向かって生きている人々のことを知り、自分らしさについて考える。

成果と課題

関連学習を進める中で、児童から、いろいろな人がいることや、いろいろな考え方があることを肯定的に受け止める発言が出るようになってきた。また、本時の活動から、3年生にふさわしい「性の多様性」を実感することができた。ただ、イメージが膨らみにくい部分もあり、適切な発問や教材作りに苦労した。今後も中学年での実践として継続していくために、活動形態や資料の提示の仕方を改善しながら、よりよい方法を探っていきたい。

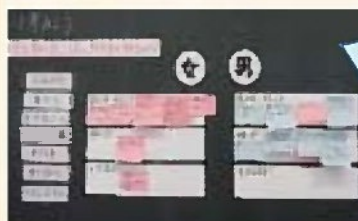
倉敷市立穂井田小学校 第3学年

研究のポイント

- ◎ 女らしさ男らしさについて考える
- ◎ 性に関する「四つのものさし」

★学級活動「性別について考えよう」

女の人とは、男の人とは、どんな人のことを言うのでしょうか。

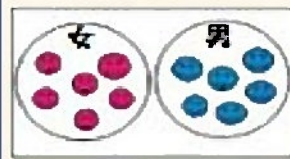
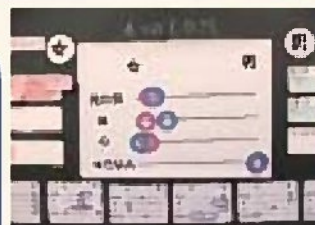


児童の反応
(女)髪が長い 私 スカートををはく
バレーやバスケットが好き
(男)髪が短い 僕 筋肉
ズボンををはく
サッカーや野球が好き

「四つのものさし」で、自分に当てはまるところは、どのあたりでしょう。

児童の感想

- 自分は女と思っていたけど、探してみたらいろいろなところがあった。
- 周りの見方と自分の考えは違うこともあると思った。
- 女の人でも男の人らしいところがある人いれば、私は絶対女という人もいることが分かった。
- 女の人には女、男の人には男ではなく、みんなそれぞれでいいと思った。



↓ ではなくて



性の多様性に気付き、自分らしさを大切にすることができる児童の育成

目指す児童の姿

女らしさや男らしさなど、暮らしの中で見られる固定的な役割分担に捉われず、自分らしさを大切にすることができる児童を育成したい。性別は単純に男女に分けられるものではなく、多様な性があることを知り、自分もその一員であることに気付くことができるようにしたいと考えた。

関連学習

日々の暮らしの中で

- ① 友達のよいところ見つけ
- ② クラスのめあて作り
- ③ 性の多様性に関する絵本の読み聞かせ

教科等の中で

- ① 国語科「わたしと小鳥とすずと」
- ② 道徳「そのリボンよごれているね！」
 - ・ よいところに関心をもち、伸ばしていく。
- ③ 学級活動「女らしく・男らしくではなく自分らしく」
 - ・ 暮らしの中の固定的な性別の役割分担に捉われないで自分らしく生きる。
- ④ ★学級活動「いろいろな性別について考えよう」
 - ・ いろいろな性別があることを知り、自分もその一員であることに気付く。

成果と課題

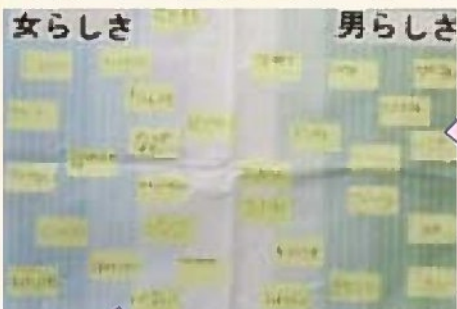
関連学習を終えて、自然に男女が混ざったグループができたり、学芸会で、乙姫の役をしたいという男の子、おじいさんの役をしたい女の子など性別に捉われず、自分のやりたいことを思いっきりやろうとする姿が見られるようになったりした。性別は単純に男女に分かれるものではなく多様であることを知り、互いのよさや違いを認め合おうとするようになってきた。「好きになる性」については、中学年の児童には捉えにくいのではないかと考え、この度は扱わなかったが、体育科（保健）の学習などとも絡めて、どのように指導していくかが今後の課題である。

倉敷市立第一福田小学校 第3学年

研究のポイント

- ◎ 性の多様性をつかむ
- ◎ 自分もその一員であると気付く

★学級活動「いろいろな性別について考えよう」



自分に当てはまるところに手を挙げてみよう！

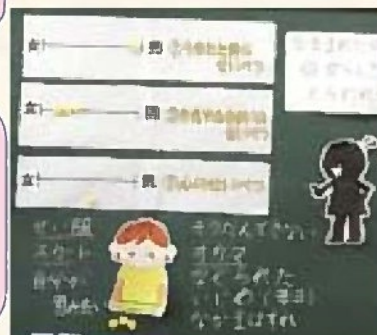
女らしさ・男らしさで集めた言葉なのに、いろいろな所で手が挙がる！

外見やふるまいでは、自分はどのあたりに印がつくかな。

自分らしく生きていくことが大切だ！

心の性別について知ろう！

「男なのにピンクが好きなんて変。」とかからう子に、どのように声をかけたら悪いことをしたと気付くかな。



- ・ 「女や男にこだわらず、自分らしく生きたらいいよ。」
- ・ 「ぼくもピンクが好きだよ。」
- ・ 「みんな違うんだから。」

自他のよさや違いを認め合う望ましい人間関係の形成

目指す児童の姿

友達との関わりの中で自尊心を高め、一人ひとりが「自分らしさ」を発揮できる学級づくりをしていく。その上で、性の多様性を含めた「その人らしさ」を認め尊重する態度を育成していきたい。そして、誰もが自分らしく生活するために大切なことや自分にできることを考えていけるようにしたい。

関連学習



クラスでの 主な取組

- ・褒め言葉のシャワー
- ・教育相談
- ・関連絵本の読み聞かせ
- ・学級文庫に関連図書の設置



道徳の時間

「マンガ家になろう」
A-(4)個性伸長
「消えたマイケル」
C-(13)公正公平・正義
「言葉のおくり物」
B-(10)友情・信頼

勝手に決めつけず相手の
思いを大切にしたい
な。
違いを認め合って仲良
くしたいな。

学級活動

「将来なりたい職業を見
つける準備をしよう」
「男女別は当たり前？」

性別は関係なく、自分の
好きなことを選択したら
よいのだな。

倉敷市立倉敷東小学校 第5学年

研究のポイント

- ◎ 道徳の時間との関連
- ◎ 「自分らしさ」を認め合う継続的な活動

★学級活動「一人ひとりの個性について考えよう」

「自分らしさ」って何？

見た目・性格・趣味・得意なこと・苦手なこと・好きなもの・嫌いなもの など

良い事も気になる事もすべて「自分らしさ」だな。

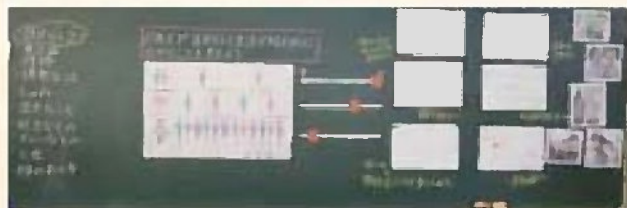
性の在り方も「自分らしさ」の一つ

性には「身体の性」「心の性」「好きになる性」があり、人それぞれであることを知る。「男らしさ、女らしさって何？」(NHK for school 道徳ドキュメント)で当事者の話を聞く。また、性の在り方の実例を示し、性の在り方は100人いたら100通りあるということを知らせる。

今まで当たり前と思っていたことが、当たり前ではなかった。
性は男と女だけではないのだな。
一人ひとり違っていいのだな。

誰もが自分らしく生活するために大切なこと

勝手に決めつけをせず、相手の思いを大切に
する。自分に自信をもつ。人と違ってよい。
違いを認め合いたい。みんな仲間だ。



成果と課題

関連学習で多様性を尊重するための素地づくりをしてきた。中心となる授業で児童は、「自分らしさ」や「その人らしさ」を大切にしたいという思いをもつことができた。本時では、今まで当たり前だと思っていた性の見方が違ったということに戸惑う児童も見られたが、性の在り方は男と女だけでなく、たくさんあるということを知ることができた。そして、性の在り方を含めた「自分らしさ」を大切にするための考えを話し合うこともできた。しかし、まだ児童たちにとって LGBT は縁遠いもののようだ。今後、知識を補足しつつ、関連図書を紹介したり教室に配置したりして、身近なものと感じ、自分の性と向き合うきっかけになるよう、継続して指導を行いたい。

自分らしく生きるために大切なこと

目指す児童の姿

性の多様性に対する正しい知識を学習することを通して、自分や他者の多様な在り方を尊重し、その中で自分も相手もありのままを受け止めることができ、自分らしさに自信をもつことができる児童の育成を目指す。

関連学習

- ① 学級活動「ちがいのちがい」
あってもよい違い（個性）とあってはいけない違い（差別）を知る。

- ② 社会科「さまざまな土地の暮らし」
倉敷市では、当たり前と思っている生活習慣や日常のできごとが、他の地域に行くと当たり前ではないことに気付く。

- ③ 体育科（保健）「性ってなんだろう」
「心の性」と「身体の性」は、必ずしも一致しないことや「好きになる性」は、同性の場合もあることを知る。そして、それは特別なことではないことに気付く。

- ④ 道徳「男らしさ・女らしさ」
NHKデジタル教材『道徳ドキュメント』を使用し、自分らしく生活できている人とできていない人の存在を知る。性は男女の二つだけに分けられるのではなく、多様であることに気付き、それを認め合おうとする心情を高める。

- ⑤ ★学級活動「だれもが生活しやすくするには」
当事者が困っている理由を考え、社会全体をすぐに変えることは難しいが、自分の意識は変えることができることに気付く。

成果と課題

児童は予想していたよりも、性の多様性を理解し受け入れることができていた。当事者に寄り添って考え、互いに認め合えることの大切さを感じ取ることができていたように思う。しかし、『自分が見たり聞いたりしている場面』と『自分が直接相談される場面』では、児童の反応が微妙に違っていた。すぐに考えを変えることの難しさを感じると同時に、頭では分かっていることを、いざ行動に移すことの難しさも垣間見られた。「多様な性」「性的マイノリティ」については、幼少期から発達段階に応じて長い時間をかけて学んでいく必要性を感じた。

倉敷市立連島北小学校 第5学年

研究のポイント

- ◎ 「当たり前」からの脱却
- ◎ 自分に引き寄せて考える

★学級活動「だれもが生活しやすくするには」

- どうして困っているのかな。



かわいい服がほしいな。

「男の子が女性服のお店に入るのに勇気がいる。」
「周りの人におかしいなって思われそう。」
「『買って』と言っても、買ってくれなさそうだな。」

- どんな声かけをしますか？



赤いランドセルを背負った男の子に「男なのにおかしい～」と言っている子がいます。

「ぼくも赤色好きだよ。好きならいいじゃない。」
「人それぞれだからいいんじゃない。」

児童の振り返り

- ・ 私が出会ったら、心の声で「あの人はおかしくない。」と言うと思う。「おかしい。」とは言わないと思う。
- ・ 本人にとっては大事な悩みだから、話を聞いたり、何か手助けをしたりできるようになりたい。
- ・ LGBTの人の気持ちがわかった。



自他のよさや違いを認め合う望ましい人間関係の形成

目指す児童の姿

自他のよさや違いを認め、自分らしさ（その人らしさ）を大切にし、よりよい人間関係づくりをしようとする心情や態度が育つようにする。多様な性の在り方があることを知り、性差に捉われず、自分らしさを尊重し合うことの大切さを理解できるようにする。

関連学習

学級活動「自分らしく」

性差に捉われず、自他のよさを認め合い、よりよい人間関係づくりをしようとする心情や態度を育てる。

★学級活動「自分らしさを大切に」

多様な性の在り方や性的マイノリティの人々の思いや望ましい社会の在り方について理解できるようにする。



学級活動「みんなが自分らしく生きる」

多様な性の在り方を肯定的に捉えることの大切さを理解したり、当事者が生きづらさを感じている社会の在り方について考えたりすることができるようにする。

学級活動「その時 私は…」

性的マイノリティの人々について、自分の身近なこととして考えたり、今後の自分と他者との関わり方を考えたりすることができるようにする。

成果と課題

性的マイノリティの方の手記をもとに、多様な性の在り方や当事者が生きづらさを感じている社会の在り方について考えた。その中で、児童は、互いが認め合い、平等に接することでみんなが生きやすい社会になると感じたり、一人ひとりの自分らしさを受け入れ合うべきだという思いをもったりすることができた。今後は、児童が自他を尊重し合って行動することについて考えたことを実践できるように支援していくことが課題である。

倉敷市立郷内小学校 第6学年

研究のポイント

- ◎ 互いの自分らしさを尊重し合う
- ◎ 多様な性の在り方の理解(関連学習の充実)

★学級活動「自分らしさを大切に」

トランスジェンダーの人の手記

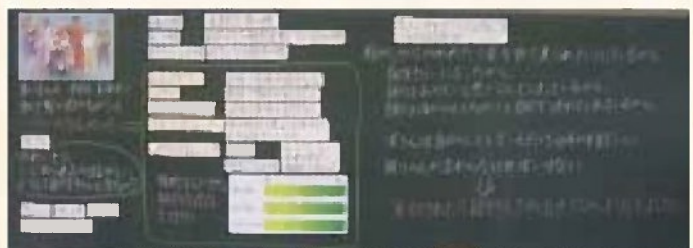
体は男だけど、心は女。髪型や服装など男らしくするのがいやだった。好きになるのは男子だったけど、ほかの人にばれるといじめられるのがこわくて、小学生の時はずっとかくしてきた。中学生の時、思いきって好きな子に告白した。そうしたら、男同士であることを理由にふられてしまった上に、告白したことが周りにばれてしまい、変な人と見られたり、からかわれたりするようになった。そのころから、自分はおかしいのだと思い、こんな自分をきらいようようになった。

当事者が生きづらさを感じているのはなぜか？

児童の反応

- ・ 周りの人が当事者の自分らしさを大切にしていないから。
- ・ 性的マイノリティのことを周りの人がよく知らなくて、差別されるから。
- ・ 当事者が、「性的マイノリティのような人は自分じゃない」、「自分は特別なんだ」と思っているから。

性的マイノリティについての理解が必要



自分らしさを大切に ～多様性を認め合う社会へ～

目指す児童の姿

多様な性の在り方を理解し、社会に出た時に多様な性を認め合うことのできる児童を育成したい。また、性の多様性を認め合うだけでなく、社会全体の様々な多様性も認め合い、尊重し、自分らしく生きることのすばらしさも捉えることができるようにしたい。

関連学習

学級活動「なりたい職業について考えよう」
自分の個性や適性を生かした職業を選ぶことの大切さに気付くことができる。

学級活動「身の回りの『ちがい』について考えよう」
「違う」というだけで判断するのではなく、それぞれのよさを認め合うことの大切さについて考えることができる。

道徳「陽子、ドンマイ！」（主題名：力を合わせて）

学級活動「多様な『性』について考えよう」
「男らしさ」「女らしさ」に捉われず、多様な性を認めることができるようにする。

道徳「森川君のうわさ」（主題名：かたよらない心）

★学級活動
「すべての人が自分らしく生活できる学校にするために何ができるだろう
～トランスジェンダーの方から学ぼう～」

成果と課題

研究主題「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」に迫るために、自分の個性や適性を生かすことの大切さや「違う」というだけで判断するのではなく、よさを認め合っていくことの大切さを考える活動を組み、性の多様性を社会に存在する様々な多様性の一つとして考えるように単元計画を工夫した。そのため、興味本位にならず、じっくりと考えることができた。また、実際に性的マイノリティの方と触れ合うことで自分たちと変わらないと思い、偏見をもたずに身近なこととして考えることができたのでよかった。どう単元を組んでいくかがとても大切になると感じた。

倉敷市立柳井原小学校 第5・6学年

研究のポイント

- ◎ 様々な多様性を認め合う大切さ(関連学習の充実)
- ◎ 自分らしく生きることのすばらしさ

★学級活動

「すべての人が自分らしく生活できる学校にするために何ができるだろう
～トランスジェンダーの方から学ぼう～」

- ゲストティーチャーは話合いに参加し、児童の疑問や考えに助言する。



- ・ トイレは困るな。
- ・ 制服はどうするんだろう。
- ・ 周りの人がよく分かっているから。

- ゲストティーチャーには、困っていることだけでなく、周りの人の言動でうれしかったことなど、明るい展望につながる話も交えてもらい、「自分らしく生きることがすばらしい。」という思いをもたせるようにする。



児童の感想

- すべての人が自分らしく生活できるようにするには、いろいろな人の気持ちを考えて行動し、一人の人として理解し合うことが大切だと思った。
- イメージと違うからといって差別するのではなく、イメージの幅を広げて接すればよいと思った。

心身機能の発達と心の健康

目指す生徒の姿

保健体育は、生殖に関わる機能について学習することから、「性の多様性」の知識的側面を支える重要な教科である。性情報の正しい知識を基に、正しい対処について理解することで、性の多様性を認め合う心につなげ、心から他者を大切にできる態度を目指す。

関連学習

学級活動

「いろんな性別～LGBTに聞いてみよう～」

- ・ 同名のDVD教材を視聴、多様な性の在り方や性的マイノリティについて理解する。



- ・ 性には四つの捉え方（身体の性・心の性・好きになる性・社会的な性）があり、それぞれ単純に「男か女」に二分化できないこと、人に決められることではないことを理解する。



成果と課題

以前は、一部の男子生徒が、声変わりをしていない男子生徒に対して「女みたいな声でしゃべるな」など、心ない発言をしてしまう姿も見られたが、多様な性の在り方や性情報への正しい対処法を学習したことで、他者の気持ちを考え、望ましい行動をとれる場面が多くなったと感じている。今後の課題は、今回学んだ正しい知識を基に、生徒が社会全体の多様性を認め合い、尊重し合い、自分らしく生きていくことができる力を身に付けることである。

倉敷市立南中学校 第1学年

研究のポイント

- ◎ 性情報への正しい対処法について考える
- ◎ 性的マイノリティについて正しく理解する

★保健体育「性情報への正しい対処法について考えよう～性的マイノリティに関する情報～」

世の中にあふれる性情報の中には、間違った情報や性衝動をあおろうと意図してつくられたものもある。とりわけ、性的マイノリティに関する情報は誤解や偏見に基づくものが多いと考えられる。

- 性情報への正しい対処法について考えよう
- 誰もが自分らしく生きられる学校や社会にするためには、どうすればいいのだろう

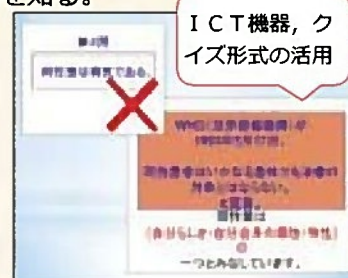
○ 事例Ⅰ「性器に関するうわさ」

真実かどうか疑わしい箇所を考えることで、インターネットやテレビ、雑誌には間違った情報がたくさん含まれており、全てを信じてしまうと危険性があることを理解する。

○ 事例Ⅱ「性的マイノリティに対する中傷」

「ホモ、レズ、おかま」などは性的マイノリティ当事者に対して軽蔑した言い方であること、性的マイノリティについて正しく理解することの大切さを知る。

- ◇ 自然界では雄雌あいまいな個体の存在は珍しくない。性的マイノリティが差別されることはおかしいし許されない。性の多様性を認め合える人は他のことも認め合える。



性情報へ正しく対処するためのポイント

- ① 正しい知識をもつ
- ② 一つの情報だけをうのみにしない
- ③ 性は命に関わり、性情報を軽々しく扱わない

差別や偏見のない社会の実現を目指して

目指す生徒の姿

性的マイノリティ当事者とその家族の思いに寄り添い、差別や偏見を許さない心情を育てる。全ての人が自分らしく生きることができる社会の実現を目指す。

関連学習

- 7月 校内職員研修
「性の多様性を認め合う指導・支援」
講師：岡山大学大学院保健学研究科
教授 中塚 幹也
- 8月 中学校ブロック
保幼小中合同研修会
「性の多様性、性的少数者について
指導する上で大切にしたいこと」
講師：「プライド岡山」事務局

1. 学級活動「ちがいのちがい」

個性や文化の違いと、不平等による違いに気付く。



2. 学級活動「自分らしく…（ジェンダーフリーの観点から）」

固定観念や因習に捉われて、生き方を限定するのではなく、自分らしさや自分の思いを第一に考える。



3. 学級活動「多様な性について（LGBTとは）」

男と女、異性愛だけではない、性の多様性を理解し、誰もが多様な性の一員であることに気付く。

成果と課題

「13人に一人は性的マイノリティだということをもっと広めた方がいいと思った」「社会の方を変えなければいけない」という感想もあるように生徒は予想以上に真剣に考え、素直に受け止めることができていた。また、「ホモ」など当事者を傷付けるような言葉がクラスでほとんど聞かれなくなったことも、この研究実践の成果だと思う。今後直面する課題としては、当事者のケアである。非常にデリケートな問題だが、学校全体で取り組み、教員を含め正しく理解する必要性を感じた。

倉敷市立郷内中学校 第2学年

研究のポイント

- ◎ 「多様な性」について正しく理解する
- ◎ 手記の活用（当事者・周囲の人の心情の理解）

★道徳「カミングアウト・レターズ」

ゲイである昌志(27)と母(55)の往復書簡。(書籍より抜粋)
昌志の葛藤、母が綴る息子に対する後悔の気持ちに寄り添う。そして、正しく理解することの重要性、さらに多様性を認め合い、誰もが「自分らしく生きる」ことはすばらしいという心情を育てる。



母が息子のカミングアウトを受け入れることができたのはなぜだろう。

- ・ゲイについて知ろうと努力したから。
 - ・息子だから。
- 幸せになってもらいたい。



～自分らしく生きることが息子の幸せ～

トランスジェンダー当事者からのメッセージ
たくさんを知ることができた今、自分を否定することなく、ありのままで暮らせています。深く悩んだこともありましたが、それがあったからこそ前を向いて歩くことができていたのかなと思います。(一部抜粋)

生徒の感想

- ・ マイノリティの人が暮らしやすい世の中を作る義務が私達にはあると思った。
- ・ いろいろな人がいるからいいと思うし、その方たちの個性だから、別に気にすることはない。昌志さんのような人が苦しむ社会の方をもっともっと変えなければならないと思った。

倉敷市立連島南中学校 第2学年

研究のポイント

- ◎ 「多様な性」について正しく理解する
- ◎ 当事者と交流し、思いを知る

★学級活動「トランスジェンダーの方から学ぼう」

誰もが自分らしく生きられる学校や社会にするためには、どうすればいいのだろう。

-
- タンタンタンコは
でべそが11

- 1 トランスジェンダーの方が困っていることや望ましい社会について考えよう。ゲストティーチャーにも聞いてみよう。
- ・ 就職で困ったことは？
 - ・ 学校の制服はどうしていた？
 - ・ 自分の性別をどう思っている？
 - ・ トイレやお風呂はどうするの？
 - ・ 社会は今と昔ではどこが変わった？
 - ・ 周りの視線や扱いでいやな思いをした？
- 2 誰もが自分らしく生きるためにできることは何だろうか。
- ・ 正しい知識をもち周りに伝えていくことが大事。
 - ・ その人の立場になったらどうするか、どのように接するのがよいかを考えて行動する。
 - ・ いろいろな人がいて当たり前と思える社会にするために、性的マイノリティについてみんなが知る事が大切。
- 



成果と課題

15

性の多様性について、学び、考え、伝えよう

目指す生徒の姿

「13人に1人」と言われている性的マイノリティ。当事者かもしれない生徒も含め、誰もが安心して生活できる学校づくりを進めるために、先入観による偏見でなく、正しい知識を身に付け、性の多様性を認め、差別を許さない態度で周囲の人と適切に関わることでできる生徒を目指す。

倉敷市立船穂中学校 第2学年

研究のポイント

- ◎ **アウトプットによる主体的な学び**
(豊かな創造性、発展的な学習)
- ◎ **学年・学校全体で取り組む学習活動**

関連学習

【道徳】

- 「ちがいのちがいの」
- 「本当に『あたりまえ』？」
- 「男らしさ 女らしさって何？」

【総合的な学習の時間】

- 「多様な性について正しい知識を身に付けよう」
- 「性的マイノリティ当事者へのインタビュー」
(担当班生徒)
- 「性の多様性について学んだことを伝えよう。」
(調べ・まとめ活動)
- ★「性の多様性について学んだことを伝えよう。」
(他学年への発表)
- 「性の多様性について学んだことを伝えよう。」
(保護者への発表)

★総合的な学習の時間

「性の多様性について学んだことを伝えよう。」
(他学年への発表)

A～Fの六つの班の発表内容

A 【導入】身の回りの事象を中心に自分たちの中の固定観念について気付く。

性別って何種類あるか知っていますか？

B 【Q & A】
C 【基礎知識】
クイズを取り入れ、解説を挟みながら、多様な性の在り方について分かりやすく説明する。



D 【聞いてみよう】
直接インタビューして聞いた当事者の思いを映像と共に伝える。

Q. 支えられてうれしかったことは？
A. 「男」とか「女」とかでなく「自分」として見てくれる周囲に感謝している。
Q. どうして私たちに話をしようと思ったのですか？
A. 自分が中学生のとき、友達が知ってくれていたら過ごしやすかっただろうから。

E 【考えよう】学習の総括としてA～Dまでの内容を振り返り、自分たちにできることを提案。
例「性は多様であるべき。私たちから意識を変えよう。」



F 【啓発・広報】ポスター、標語、手作りバッジを使って啓発。



成果と課題

教職員も「性の多様性」や「性的マイノリティ（LGBTQ）」について、生徒とともに学びを深めることができた。その中で、生徒たちが見せる、大人にはない柔軟な発想や考え方に感心させられることも多々あった。第2学年の生徒が充実した学習ができたことに加え、その発表を聞いた第1・3学年の生徒からも「この学習がなかったら、性的マイノリティの存在や性は多様であることを知らなかったし、考えることもなかった。」と感じており、学校全体としての学びにつなげることができた。

参考資料

リーフレット等

- 『先生に知ってもらいたい多様な性』平成 28 年度岡山市市民協働推進モデル事業 プラウド岡山×岡山市教育委員会事務局指導課 2016 年
- 『教職員のためのセクシュアル・マイノリティサポートブック Ver. 3』奈良教職員組合・性と生を考える会 2015 年
- 『性自認および性的指向の困難解決に向けた支援マニュアルガイドライン』一般社団法人社会的包摂サポートセンター 2016 年
- 『学校の中の「性別違和感」を持つ子ども 性同一性障害の生徒に向き合う』JSPS 日本学術振興会科学研究費助成事業 中塚幹也 2015 年
- 『子どもの“人生を変える”先生の言葉があります。』平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 研究代表者 日高庸晴 2015 年
- 『主に岡山県内の性的マイノリティを対象とした学校生活に関するアンケート調査報告書』岡山市市民協働推進ニーズ調査事業 プラウド岡山 2016 年
- 『わたしたちはここにいる 性的マイノリティの声：奈良県版』性と生を考える会 2016 年
- 『「性はグラデーション」大阪市淀川区・阿倍野区・豊島区 3 区合同ハンドブック』2015 年
- 『ONE STEP UP』倉敷市市民局人権政策部男女共同参画課

書籍

- 『セクシュアルマイノリティ第3版—同性愛、性同一性障害、インターセックスの当事者が語る人間の多様な性—』セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク編 明石書店 2012 年
- 『NHK「ハートをつなごう」LGBT BOOK』NHK「ハートをつなごう」制作班監修 太田出版 2010 年
- 『LGBTQを知っていますか?“みんなと違う”は“ヘン”じゃない』日高庸晴監修 星野慎二著 少年写真新聞社 2015 年
- 『職場のLGBT読本』柳沢正和・村木真紀・後藤純一著 実務教育出版 2015 年
- 『LGBT問題と教育現場—いま、わたしたちにできること—（早稲田教育ブックレットNO. 13）』早稲田大学教育総合研究所監修 学文社 2015 年
- 『性について語ろう 子どもと一緒に考える（岩波ブックレット No.872）』池上千寿子著 岩波書店 2013 年
- 『カミングアウト・レターズ 子どもと親、生徒と教師の往復書簡』RYOJI・砂川秀樹編 太郎次郎社エディタス 2007 年
- 『タンタンタンゴはパパふたり』ジャスティン・リチャードソン文ほか ポット出版 2008 年
- 『いろいろな性、いろいろな生きかた（全3巻）』渡辺大輔監修 ポプラ社 2016 年
- 『学びの場における多様性と人権（季刊セクシュアリティ第74号）』一般社団法人“人間と性”教育研究協議会 エイデル研究所 2016 年
- 『もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ ありのままの君がいい（全3巻）』日高庸晴著 汐文社 2015 年
- 『多様性教育入門 参加型人権教育の展開』大阪多様性教育ネットワーク・森実編著 解放出版社 2005 年
- 『多様性の学級づくり 人権教育アクティビティ集』大阪多様性教育ネットワーク・森実編著 解放出版社 2014 年

授業実践について

- 『中学校における「性の多様性」理解のための授業づくり（埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 紀要 No.10 2011）』埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 2011 年

視聴覚教材

- 『あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権（DVD）』法務省人権啓発ビデオギャラリー 2015 年 ※YouTube で視聴可能、倉敷市で貸出可能
- 『先生にできること～LGBTの教え子たちと向き合うために～（DVD）』早稲田大学教育学部金井景子研究室制作 2012 年
- 『いろんな性別～LGBTに聞いてみよう～（DVD）』新設Cチーム企画制作 2012 年
- 『男らしさ、女らしさって何？』NHK for School 道徳ドキュメント 2015 年

本冊子のデータファイル及び関連する学習指導案等のデータファイルは、倉敷市ホームページと倉敷市教育委員会情報共有システムに登録されています。必要に応じてダウンロードしてお使いください。



倉敷市ホームページ

…本冊子のデータファイル

倉敷市＞市の組織＞教育委員会＞人権教育推進室＞人権教育実践資料＞

<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/30449.htm>

人権教育実践資料 2 性の多様性を認め合う児童生徒の育成 I

倉敷市教育委員会情報共有システム

…本冊子のデータファイル、関連する学習指導案のデータファイル

広場に行こう！＞3 様式・事務手引の広場＞様式・事務手引のキャビネット＞

002-1 人権教育推進室（指導資料）＞

002 人権教育実践資料 2 性の多様性を認め合う児童生徒の育成 I ＞

00 人権教育実践資料 2 性の多様性を認め合う児童生徒の育成 I

01 穂井田小 第3学年学級活動

「性別について考えよう」

02 第一福田小 第3学年学級活動

「いろいろな性別について考えよう」

03 倉敷東小 第5学年学級活動

「一人ひとりの個性について考えよう」

04 連島北小 第5学年学級活動

「だれもが生活しやすくするには」

05 郷内小 第6学年学級活動

「自分らしさを大切に」

06 柳井原小 第5・6学年学級活動

「すべての人が自分らしく生活できる学校にするために何ができるだろう
～トランスジェンダーの方から学ぼう～」

07 南中 第1学年保健体育

「性情報への正しい対処法について考えよう～性的マイノリティに関する情報～」

08 郷内中 第2学年道徳

「カミングアウト・レターズ」

09 連島南中 第2学年学級活動

「トランスジェンダーの方から学ぼう」

10 船穂中 第2学年総合的な学習の時間

「性の多様性について学んだことを伝えよう。」



平成28年度人権教育課題研究委員

倉敷東小学校	劔持 りえ	連島北小学校	佐藤 由実
第一福田小学校	八百 裕美	郷内小学校	森川 友美
穂井田小学校	藤井 治美	柳井原小学校	藤澤 隆
南中学校	横山 武典	連島南中学校	藤原 知佐子
郷内中学校	大島 由紀	船穂中学校	田中 和子

人権教育課題研究事業について

学校教育に関わりの深い人権課題について実践的研究を進め、その成果を倉敷市内の各学校園に広げることにより、倉敷市の学校園人権教育の推進に生かすことを目的に、平成17年度より実施しています。

人権教育実践資料 2 性の多様性を認め合う児童生徒の育成 I

倉敷市教育委員会 学校教育部指導課 TEL 086-426-3831
人権教育推進室 TEL 086-426-3803

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。